

第6学年2組 道徳科学習指導案

令和2年11月26日(木) 第4校時
場 所 6年2組教室
児 童 数 男子14名 女子17名
授 業 者 教諭 菅野 智也

1 主題名 世のためになる仕事 内容項目【C—(14) 勤労、公共の精神】

2 本時のねらい 佐野藤右衛門さんの仕事に対する姿勢について話し合う活動を通して、自分の仕事に誇りをもって社会的責任を果たすことのよさについて気づき、集団の一員として自分の役割を積極的に果たそうとする態度を育てる。

教材名 桜守の話(出典「新しい道徳6」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本内容項目の小学校5年生及び6年生の指導の観点は、「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役立つことをすること。」である。「勤労、公共の精神」は、低学年「働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。」、中学年「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。」によって育まれている。更に中学校では、「勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。」と共に「社会参画」の内容項目と合わさり、「社会参画の意識と連帯自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。」に発展していく。

高学年の段階においては、勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。児童会や学校行事の仕事を主体的に行うことが期待される。彼らが、勤労は社会のために役立ち、社会に貢献するという意義を理解し、社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動にも目を向けていこうとする心情を養うことをねらいとする。

さらに、人間として生きていくには、仕事に誇りと喜びを見出だし、将来や社会に対する夢と希望、そして生きがいをもって仕事に取り組めることが大切である。働くことは、単に自分が生活していくためだけでなく、自分に課された社会的責任を果たすという意味においても重視する必要がある。そのことを通して、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びをも味わうことができる。働くことの意義や役割を理解し、それを現在の自分が学んでいることとのつながりでとらえることは、将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観をはぐくむ上でも重要なことである。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、委員会活動、1年生との清掃など経験し、働くことの意義や喜びについて感じ取ることができている児童も多い。今年度行った道徳「うちらネコの手ボランティア」の教材でも、「人の役に立つことだ」「自分から行動できるって素晴らしい」という考えを持っている児童がほとんどである。しかし、普段の生活の中では、学校や学級の決められた仕事だからやる、言われた

ことだからやる、という傾向が強く、自分から社会や人のために役立つ活動に気付き、その活動に積極的に取り組もうとする意識にまでは至っていない。

そこで、勤労が自分のためだけではなく、社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役に立つ活動に目を向け、積極的に取り組めるような意識を持たせることが大切である。また、そのことから得られる喜びをもとに、社会に奉仕する心構えを育てていきたいと考える。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、桜の保存という仕事に一生をかけて取り組む佐野さんの実話である。季節ごとの仕事内容が佐野さんの語り口調で紹介されている。最後に出てくる「桜守の心」について、グループでの話し合いを取り入れるなどして深く考えられるようにしたい。佐野さんの桜に寄り沿う活動を通して、桜守という仕事に対する熱い情熱と使命感、社会に貢献したいという思いに気付くようにしたい。佐野さんの思いを共感的に考え、勤労の意義や尊さを感じることで、仕事を通して社会貢献を果たす態度の育成を図りたい。

本学級の児童の実態を受け、話し合いの視点として、次の3つの場面が考えられる。

- ①仕事をするのは嫌じゃないのかな。
- ②周りの人は佐野さんの仕事をどう感じているのかな。
- ③佐野さんはどんな思いで仕事をしているのだろう。

それぞれの視点では、以下の事をおさえて、指導にあたる。

- ①佐野さんが行っている活動がどんな意味があるのか考えさせたい。
- ②佐野さんの言動を通して、人のために働く意義に気づかせたい。
- ③佐野さんの生き方から学びたいことを考えさせたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

3 学校研究との関わり

【研究主題】 自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心の力を育む道徳教育

上記の研究主題を具現化するために、以下の手立てを講じる。

【手立て】

①議論する時間確保のための工夫

価値について深く考えるために、話し合いの時間を確保したい。そのために、導入の段階では、教材の説明をなるべく少なくするなどして時間短縮を図りつつ、道徳的価値への方向付けを図る。

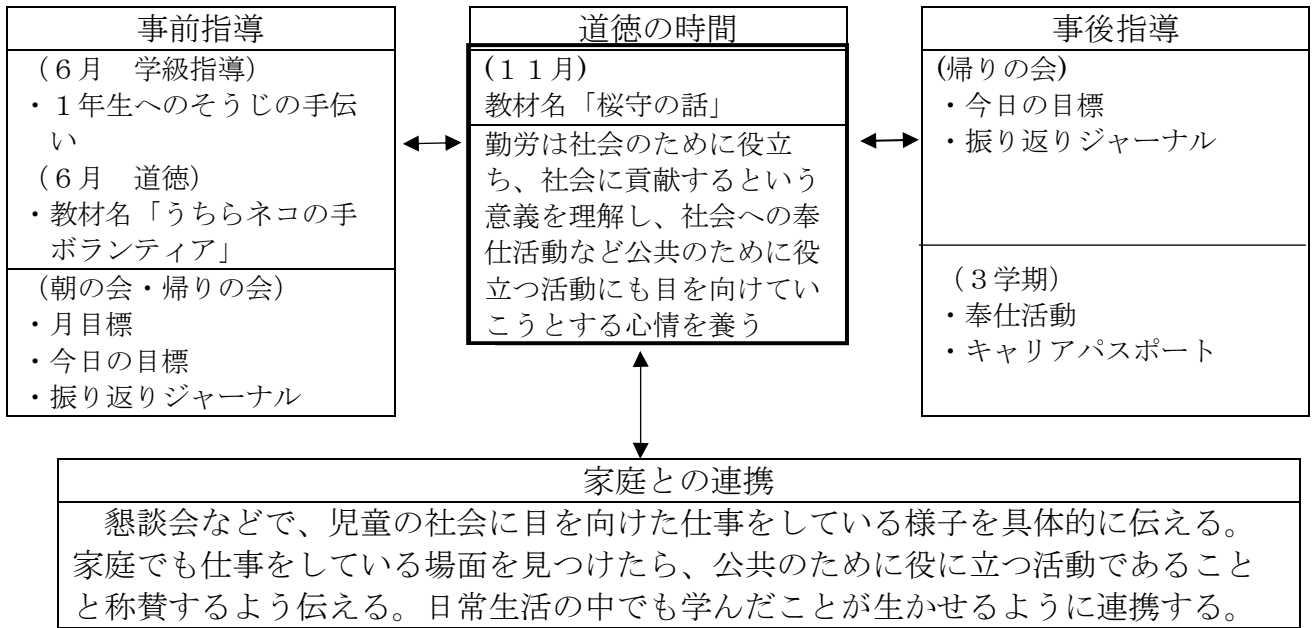
②物事を多面的・多角的に考える発問の吟味

問いの視点を多面的に位置付けたり、多様な考えが出るようなゆさぶりの発問の精選を行った。多様な考え方や感じ方に触れられるような中心発問を準備した。児童の思考を広げ深められる授業としたい。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	※指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 (3分)	1 学習問題を設定する。 ○人のためにどんな働きをしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・当番や係の仕事でみんなを手伝っている。 ・掃除のお手伝いをした後、1年生に「6年生ありがとう。」といってもらって、みんなのためにがんばってよかったと思った。 	※事前にアンケートをとり、働くことについて自分を見つめさせる。
「働く」って何だろう。			
展	2 資料について知る。 3 教材文の範読を聞く。 4 桜守の仕事をしている佐野さんの気持ちを考える。 ○佐野さんは、どんな気持ちで桜守という仕事をしているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・桜を見守ってあげたい。 ・一年間通して桜を見守ることは大事だと思っている。 ・受け継いだ仕事だから、続けていきたいという気持ち。 ・みんなに喜んでもらえるよう、桜に対しての愛情を深く持つ。 	※子供たちの感想を生かしながら、本時の話し合いの方向性を確かめるようにする。
開 (40分)	5 周りの人の佐野さんの仕事への感じ方を考える。 ○周りの人は佐野さんの仕事に対してどんなことを感じているかな。 6 自分を振り返る。 ○今まで自分が集団の一員としてやってきた仕事と、桜守の佐野さんの仕事には違いはありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・お寺の人から感謝される。 ・桜守を誇りに思っている。 ・仕事を楽しんでいる。 ・いやにならないのかな。 ・佐野さんは、桜の花が咲く季節だけでなく、一年中見守り続けてきた。桜の花を見る人に喜んでもらいたい。そんな仕事をしてきた。 ・みんなのことを思って仕事をやってきたかな…。 	※佐野さんの仕事や佐野さんへの理解が深まるように多面的・多角的に考えさせる。 ※切り返し発問で、佐野さんが仕事をしていて、どんなことを感じているのか大切にしているのかを考えさせる。 ☆生きがいをもって仕事をすることの大切さに気付き、社会のために役立とうとする心情を高めているか。(ワークシート、発言) ※ワークシートに振り返りをさせ、得られる喜びをもとに、世のために奉仕する心構えをもたせる。
終末 (2分)	7 教師の説話を聞く。		※商人の「三方よし」を紹介する。自分のため、人のため、社会のためになるということを感じ取らせたい。

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

佐野さんの仕事から働くことの多様な意義に気づき、様々な状況や立場から考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

これまでの自分を振り返りながら、働く喜びを感じたことについて自分なりに考え、深めている。

7 板書計画

